

就労支援フォーラム NIPPON

「M.I.E. モデル」の経済学的意義

中島隆信

慶應義塾大学

2020年2月16日

mail: nakajima@fbc.keio.ac.jp

ホームページ <http://www.nakajima-ri.net/>

経済学から見た障害者就労の利点とは

就労すれば、公的扶助を受ける人 → 公的扶助を支える人

ただし

障害者就労の実現には**配慮のコスト**がかかる

障害者就労が経済学的に見て合理的であるためには

配慮のコスト < 障害者給与

でなければならない

そこで求められる視点

全体最適

社会全体で配慮のコストを下げる工夫

配慮のコストを下げる工夫

- ▶ 企業がすべきこと
 - ▶ “本業”にかかわる仕事を創出する
 - ▶ 仕事に必要な能力を“見える化”する
- ▶ 施設がすべきこと
 - ▶ 体調管理など福祉的サポートをする
 - ▶ 当事者の長所を“見える化”する
- ▶ 行政がすべきこと
 - ▶ 就労形態の選択肢を広げる
 - ▶ 成果の有無を検証する
 - ▶ 評価システムにより施設と企業にインセンティブを与える
- ▶ 「M.I.E. モデル」の評価
 - ▶ これらの工夫が適切になされている
 - ▶ 精神/発達障害を取り込めているか
 - ▶ 継続と拡大によるコスト増にどう立ち向かうか

おわり